

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572608990		
法人名	有限会社 ゆう愛		
事業所名	グループホーム サン・ピア		
所在地	秋田県仙北郡美郷町六郷字熊野118-1		
自己評価作成日	令和元年9月30日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

サンピアでは利用者様が自分らしく安心していきいきと生活できますよう、一人ひとりのペースを大事にし、できる事を活かせるような支援をしております。又、居心地の良い環境づくりを常に考え、壁面の飾りつけや美味しい食事の提供などにも力を入れています。職員は社内研修や社外研修にも参加し、レベルアップに努めております。地域との交流として利用者様や職員が地域行事への参加や、地域の方々がゆう愛主催の介護予防教室へ毎月参加され、定着してきており関係が築けていると思います。医療面においても、できるだけ本人のかかりたい医療機関へ定期的を受診することができており、又、かかりつけ薬局の薬剤師からのアドバイスなども気軽に受けれる関係が築けております。ご家族様には毎月のお便りを利用し報告したり電話にて連絡を取り合っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和元年11月11日		

事業所は幹線道路から少し脇に入った閑静な住宅街にある。法人経営の地域密着型3施設が隣接し互いに交流し協力体制にある。代表と管理者は「どんなグループホームでありたいか」を日頃から話し合い連携しホームの運営に取り組んでいる。管理者は職員に「自分ならどう?」と常に利用者目線で接することの大切さを問いながら、利用者の気持ちを尊重し、また家事や手仕事を通じ生活者の実感を得られるような暮らしを提供することに努めている。特に食事には旬の食材を用い利用者と一緒に料理の下ごしらえや後片づけをし、器や盛りつけにも細やかに気を配り提供している。職員のスキルアップを図るため法人が資格取得を推奨し研修費用を負担、内部研修も毎月全員参加できるよう別日に2回実施している。管理者は看護師資格を有し長くグループホーム管理者も経験している職員にとって常に指示を仰いだり相談できる存在である。法人の研修体系も整っていて職員教育にも熱心な事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールの見えやすい場所にケア理念を掲示しており、職員全員が共有できるよう、日々の実践に心がけている。	理念はホールに掲げられ毎朝の申し送りでも確認している。また、職員会議やヒヤリ・ハット報告の際にも理念に添った介護や支援のあり方を話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事への参加やこちら側の行事があるときなどは、お誘いもしている。地域の方々とは会えばお互いにあいさつも交わしている。地域交流会には地域の方々にも参加していただいている。	事業所は町内会に入っており地域の祭りや行事等情報を頂き利用者も出かけている。事業所が毎月行っている介護予防教室には近隣の人たちが参加している。また事業所が地域の一人暮らしの方宅の雪かきボランティアを行う等地域とのつきあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症何でも相談所を設置している他、運営推進会議で、認知症に関する研修への参加を報告したり、町主催のキャラバンメイトに参加したりしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事への参加や事業所の取り組みを報告している。ご意見をいただいた時には、サービス向上に活かせるようにしている。	運営推進会議には町内の近隣住民の方や近所の交番の警察官も毎回参加し交通安全や防犯の助言をもらい心強いとのこと。会議では詳細な資料を準備し活動状況、避難訓練の実施状況など報告し話し合いがされていることが記録からも確認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には行政や町内会長、警察等の参加もあり、意見や助言をいただいている。又、管理者やケアマネージャーは日頃から連絡を密にしている。	運営推進会議には美郷町の地域包括支援センター職員が毎回参加される他、南福祉事務所職員の訪問も定期的であり、必要に応じ管理者が町に出向き相談できているなど市町村と協力関係が築かれている。地域ケア会議でも施設の空き状況など情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を通し何が身体拘束にあたるのか、全職員が理解し業務にあたるよう努めている。日中は玄関の施錠もしておらず、身体拘束をしないケアに努めている。	事業所の年間の研修計画にも身体拘束に関する講義が盛り込まれ、職員全員が参加している。また職員会議でも具体的な話し合いがされ、職員の身体拘束しない支援に関する理解を深めている。玄関の施錠もしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画に組まれている。日々の関わりの中に虐待の要素がないか注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画に組まれており、学ぶ機会を設けているが実際の活用機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者様や家族様がわかりやすく、不足のない説明を心がけ、理解・納得を図っている。改定等あればその都度文書で連絡している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年6回の運営推進会議でご利用者様やご家族様の意見を伺うことができている。助言があった時は運営に反映させるようにしている。又、面会に来られた際ご家族様と会話する中で伺うこともある。	利用者からの意見は日常的に支援の中で聴き、行事や外出、食事内容などに反映されている。家族からの意見は面会時や電話の際に伺っている。通院報告などこまめに近況を伝えその際にもホームへの家族からの要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や申し送りの時、又、面談の場を設け、意見を出したり提案を聞く機会を設けている。	職員は管理者や代表に何でも話しやすい環境にあり、職員の提案で業務用に携帯電話を備え支援に活かしたり、資格取得の経費を事業所が負担し職員のスキルアップを図る具体的な取り組みがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や資格手当を設け職場環境・条件の整備に努めていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修の他、外部での研修にも参加している。今年度は会社が費用を負担し、介護職員初任者研修や実務者研修に参加している職員もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修や病院主催での研修へ参加するなど、ケアの方法や考え方の違いを学ぶことができている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期のご利用時は特に不安な事や困っている事がないか、耳を傾けながら安心出来るような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期のご利用時は特に家族が困っていたり不安に思っていること、要望等に耳を傾けながら安心出来るような関係づくりに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事、得意なことが活かされるように働きかけている。一緒に生活しているという意識で関わるようにしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員で対応出来ない時などはご家族様に協力を依頼することもあり、協力体制を築けていると感じる。毎月の生活の様子をお便りで報告している。通院への同行、状態の変化などある場合は連絡等を行い協力を頂いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の面会の他、行きつけの美容院などへの外出支援をしている。	事業所は開放的で、利用者の友人・知人など気軽に来所できる雰囲気があり面会者も多い。訪問時も何人もの来客があり明るい笑い声が聞こえた。入所前からの馴染みの病院・美容院なども継続して利用できるよう外出支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係にも配慮しながらリビングでの座席にも常に配慮している。耳の遠い方には職員が仲介に入るなどし、関わりを持つよう支援している。		
21		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してもいつでも相談に応じられる旨を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で会話や表情などからできる限り本人の希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者様にはご家族様や他機関等から情報を得るようにしている。	事業所は利用者一人ひとりの思いや意向を把握し、できる限りその思いに添おうとする姿勢が見られた。猫好きの利用者が隣の飼猫をホームに招き入れ可愛がっていたり、中庭の花壇の世話、敷地内の栗の木収穫や調理、日々の関わりの中で本人の話をよく聴き本人の思いが遂げられるよう努力している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や以前のサービス利用時のケアマネから情報を得たりしている。個人ファイルで確認が可能である。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や日々の申し送りノートで速やかに現状把握できている。毎月の職員会議でも1か月の様子や変化について報告し合っている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りや職員会議で支援方法について話しあっており、介護計画にも反映されている。	毎日の申し送りや日誌等で本人の状況を職員皆が把握し、介護計画作成には家族意見、主治医等医療専門家の助言を参考にしながらケア会議の話し合いをもとに決定している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録をしており、個人記録や申し送りから情報を共有している。モニタリングにより現行の介護計画の見直しが出来ている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人行きつけの美容院・かかりつけ医療機関を継続して利用できるよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医、かかりつけ薬局等を利用するようにしている。その他月2回の訪問看護、月1回の往診が受けられる協力医療機関との関係も築いており、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者のかかりつけ医はホーム入居前からの医療機関、薬局を継続しており、それぞれ通院支援を行っている。協力医療機関は週1回の訪問看護、月1回の往診がありホームとは協力関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護時に状態の報告をし指示を仰いでいる。体調変化、急変時の相談も随時可能である。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は出来る限りの面会に努めており、病院での様子や状態の変化を担当看護師から聞き、ホーム内で情報共有している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には必ず説明し、その時期の体調に合わせて、主治医、家族との話し合いの時間を設け、方針を共有している。	契約時「重度化した場合の対応にかかる指針」をもとにホームの方針を説明している。本人家族の希望があれば医療との連携のうえ看取りを行っている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急等の研修に参加し、実践に役立てれるよう努めている。緊急時対応マニュアルがあり、それに沿って対応することになっている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練(日中・夜間想定)水害訓練を実施し、避難方法を全職員が身につけると共に近所への協力を依頼している。	避難訓練には運営推進委員でもある近所の方が参加している。水害を想定した訓練では指定の避難場所まで避難している。訓練後は反省点や課題が話し合われ対策を講じていることも確認できた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーや尊厳が損なわれることの無いよう、言葉掛けには気を付けて対応している。	利用者の一人ではなく一人の利用者として「個」を尊重した支援の方針は居室、食事、職員の言葉遣い等に表れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自分の思いや希望を表に出せるように傾聴したり、自己決定出来るように働きかけをしている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に一人ひとりの生活のペースを大切にしている。予定の時間に声掛けをし、お誘いするがその時の気分や状態に合わせて過ごせるようにしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様と相談しながら、季節や場所にあったものを身に着けられるように支援している。行きつけの美容院へ外出し、おしゃれを楽しめる支援もしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食の好みを把握し、毎回とはいかないが献立に採り入れたりしている。季節の野菜や山菜は地場のものをもとめるようにしている。食材の皮むきや食後の食器拭きなどにも参加していただいている。	旬の食材を用いホームで手作りの料理を提供している。器選びや盛りつけに気を配り、地域の家庭の味を利用者の声に耳を傾けながら出している。野菜の皮むき、山菜の下ごしらえなど利用者も毎回手伝い、片づけの茶碗ふきなどの役割を担っている。栗を収穫し栗ご飯にしたり、到来物の鯖で鍋料理、おやつのおはぎ作り等、利用者が食の喜びを感じられることを大切にしている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を把握できるように記録に残している。水分や食事が摂れていないときは、管理者や訪問看護に指示を仰いでいる。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため、毎食後一人ひとりにうがいや歯磨きをしてもらっている。寝る前には入れ歯を洗浄剤につけ、清潔保持を支援している、		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターン把握に努めている。時間でトイレへの声掛けをしトイレでの排泄を支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し利用者のペースに合わせて排泄支援を行っている。声かけや手伝う際はできるだけさりげなく行うよう心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄チェック表で便秘の日数などを記録して職員間で共有している。体操や腹部マッサージ、牛乳などでも排便を促す工夫をしている。便秘が続いているときは下剤の調整も行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的な入浴になるようにしているが、ご本人の体調や希望により前後することもある。ゆっくりした気持ちで会話しながら温度にも気を配り、満足していたけよう支援している。	入浴は時間もなるべく本人の意向に添い行っている。一人の方の入浴がすっかり終わってから次の方が準備するよう配慮し、利用者がゆっくり入浴を楽しめるように支援している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく眠れるように、寝具は清潔を保ち、室温や掛物の調整には気を配っている。一人ひとりの状態に合わせて時間帯にとらわれず休んでいただくようにしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容はファイルしておりいつでも確認できるようにしている。お薬の追加や変更があったときには特に体調や症状に変化が見られないか要観察し、変化がみられた時はかかりつけ医や訪問看護にもすぐ相談するようにしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や嗜好品・楽しみごとを理解し一人ひとりが「出来る」ことを役割として行ってもらえるように支援している。嗜好品についても体調や薬剤に影響がなければ楽しんでもらっている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられるよう散歩や外出を起案しお誘いしている。家族からの希望があれば一緒に外出できるように支援している。	一人月に1～2回は通院を兼ねた外出の機会があり、その際買物などの支援をしている他、桜や紅葉の季節のドライブ、近所へ散歩に出かけるなど利用者の希望に添って行っている。家族の協力で温泉宿や外出に出かける方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所預かりの方が大半であるが、自身で持ち、本人の希望により、買って来て欲しい物を希望された場合は職員が代わりに買い物をして支援している方もいる。又、受診のついでにお店に寄りたいと希望されることもあり、買い物や自ら支払いができるよう支援もしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身から電話をかけたいとの申し出があった時には電話をかけられるようになっており、支援している。家族から荷物が届いた時も、ご本人から荷物が届いた電話をしていただくよう声かけをしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃で館内を清潔に保つことは勿論、臭い対策としてこまめな換気や、カーテンによる採光調整も行っている。壁画や装飾で季節感を感じられるようにしている。	ホームは明るく掃除が行き届き清潔である。玄関やリビングにさりげなく季節の花が飾られ、家庭的で落ち着いた雰囲気は高齢者の生活に馴染んでいて親近感が感じられる。テーブルの下の手作りの足置き等随所に利用者への優しい気配りがなされている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は勿論、リビングに集い、思い思いに過ごせるような空間作りに工夫している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた物や、好みのものを本人や家族と相談しながら用意し、居心地よく過ごせるように工夫している。	畳とフローリングの居室があり選ぶことができる。特筆すべきは一人ひとりの居室がその人らしい個性を醸し出していて、本人のセンスや好みが尊重され、洋風のインテリアだったり、女性らしい花柄の寝具等本人が居心地良く過ごせるよう細やかな心配りがされている事である。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが自立した生活を送れるように居室やトイレにはわかりやすく表示し、ひとりで「わかること」、「出来る事」を活かせるように工夫している。		